

みんなで育てる「たいしの子」 vol.26

町立学校教育座談会

テーマ：授業はどう変わった？学校はどう変わった？【後編】

タブレットやICTの導入が当たり前になった今、問われているのは「どう使うか」。後編では、ICTを活かした授業の工夫や、情報を活用する力の育て方、そして学校と家庭・地域をどうつないでいくかについて、座談会の様子をお届けします。

■タブレットが広げる学びの世界

「授業の一環として『地面を流れる水の行方』という内容で、雨上がりの校庭にできた水たまりの写真をみんなで撮影し、タブレットでその様子をスライドにまとめました。ある班が池まで水の流れがあることを突き止めて、それを発表して、みんなすごいと驚いていました。」

「タブレットはかなり使いこなしていて、理科だけではなくて、総合的な学習の時間や他の教科でもたくさん活用しています。」

「この前、職場で今の子どもがやっていることは私たちが就職した時に教えてもらったことをやっている」という言葉がありました。タブレットを単なる「道具」としてではなく、自分たちの学びを深め、共有する「表現の手段」として活用しています。そして、それは社会につながる学びとなっています。」

◎情報を活用する力も、いま必要な力に

「私たちが小中学生の時（今から35年ほど前）は、新聞や図書室の本が正しい情報でしたが、今はインターネットの情報が“正しいかフェイクか”まで考えないといけない。」

「5年生の国語で新聞記事を扱うと、“Aの見方”“Bの見方”で印象が変わる。どっちも間違ってない。一つの正しさじゃなくて、多様な見方があるということを子どもは学びます。」

これからの社会で求められるのは、情報を自分で見極め、考え、活用すること。太子町の学校では、それを子どもの学びの中で育てています。」

■家庭との“ズレ”をどう埋める？

「懇談で昔はたくさんドリルをやったけど、今の授業ってこんな感じなんですね。と言われることがあります。1問をじっくり考える授業への理解って、やっぱり丁寧に伝えないといけないと思います。」

「学校では非認知能力を心の力として合言葉にしていて、それを家庭や地域でも使ってくれるのが嬉しいです。家でも心の力を使って話してますって保護者の皆さんから言ってもらったりもしています。」

学びの変化は、学校だけではありません。家庭・地域の理解と協力があってこそ、子どもたちの学びと育ちは深まっています。」



～学校からご家庭・地域の皆さんへ～ 子どもと一緒に「変わる学び」を楽しんでください

今、町の学校では「子どもが主語の学び」が広がり、授業の形も大きく変わってきています。タブレットを活用した探究的な学び、仲間との話し合い、1問を深く考える授業など、子どもは自ら問い合わせ、自分らしい学び方を見つけようとしています。

こうした変化は保護者の皆さんの世代が経験してこなかったスタイルであるため、「これで大丈夫なの？」「もっとドリルをやらせたほうがいいのでは？」と不安に思われる事もあるかもしれません。

実際、先生からはこんな声がありました。
「子どもが“今どんな学びをしているか”にぜひ関心を持ってもらいたい。」「特に中学生は話したがらない子も多いけれど、“見守る姿勢・興味を持つ姿勢”が伝わるだけでも、子どもは安心します。」「昔と学校の学びが変わってても、“幸せに生きてほしい”という願いは同じ。学校でも家庭でも、その願いをこれからも共有していきたいです。」

生成AIなど目まぐるしく変わる時代だからこそ、大人も子どもも迷うことが増えています。しかし、学校と家庭・地域がつながり、子どもたちの“今の学び”と一緒に見守ることが、何よりの力になります。ご家庭でも、子どもの言葉に耳を傾けたり、学校の取り組みに目を向けて頂けたらと思います。これから未来を生きる子どもたちを、私たちみんなで育てていきましょう。」

コラム：重要なのはICT端末を「どう使うか」を考える力

ICT端末は「ただ使えばいい」というものではありません。

大切なのは、「なぜ使うのか」「どう使うとよりよい学び（自分にあった学び）につながるか」を考えてそれぞれの子どもが工夫することです。たとえば、ただインターネットで調べるだけでなく、クラスのみんなの調べたことを画面に映して見比べたり、そこから「どうしてちがうのかな？」と問い合わせをすることで、学びはもっと深くなります。子どもが自分の学び方を調整し、試行錯誤しながら取り組めるよう、教師の側も「どう使えば効果的か」を考え、工夫して活用することが重要となります。

町では、授業のアップデートをキーワードに町全体で研修を整え、子どもの学びを支えていきます。

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533

非認知能力でつなぐ大人と子ども vol.4

「やるべきことをやるべき時にやる」力を育てるために

ゲームをやめずに宿題を後回しにする子どもに、思わず「宿題しなさい！」と声を荒げた経験はありませんか？

叱っても、ご褒美で釣っても、効果は一時的。それよりも大切なのは、子ども自身が“自分で選んで”行動する力—それが「自制心」です。

○自制心ってどんな力？

「自制心」とは、「やりたいか・やりたくないか」ではなく、「やるべきか・やるべきでないか」で自分の行動を選択する力。例えば、今はゲームをやりたいけど、「今やめれば、宿題のあとにもっとゲームができる」と考えられる。そんな“先を見越す力”が自制心の本質です。

自制心が高い子は、自分の感情をコントロールできる。ルールを守ることができます。目標に向かってコツコツ努力できる。

自制心は「我慢」ではなく、「良い行動を選ぶ力」。実は、自己肯定感よりも人生を左右する力とも言われています。

○どう育てる？自制心の伸ばし方

「宿題しなさい！」よりも、「今やっちゃえば、寝るまで好きなことができるよ」と、ポジティブな“結果の想像”を促す声かけが効果的です。

特に小学校低学年は、「社会性が育ち、納得して行動を選べるようになる時期」。頭ごなしに叱るのではなく、

理由を丁寧に説明することが、良い行動の習慣化につながります。

～魔法の習慣「インターバルトレーニング」～

おすすめは、町の非認知能力セミナーでも紹介された【インターバルトレーニング】という方法。やるべきこと（例：宿題）と、やりたいこと（例：ゲーム）を15分ごとに交互に行い、ON/OFFのスイッチをつくる習慣です。

最初の3週間は親がモデルに

親子で同じ机に向かい、一緒に取り組む

最後は“やりたいこと”で終える（=楽しみを先送りする喜び）

このトレーニングは、親の“見せる力”も大切。子どもは、親の姿から学びます。

○最後に

感情に流されず、やるべきことをやりきる力は、学力や人間関係、そして人生の選択肢すら大きく広げてくれます。「しなさい」の代わりに、「自分からやる子」を育てる」そんな毎日を、親子で楽しく積み重ねてみませんか？

○明日から使えるヒントが、動画と資料の両方で学べます！

ボーグさんの講演の様子や、家庭での実践に役立つ資料は、町ホームページでご覧頂けます。

町ホームページは、
こちらから▶

◆問合せ 生涯学習課 ☎98-5534

未来協議会～2町1村の取り組み～Episode. 3 「事務の共通化・共同化の取り組みについて紹介します！」

南河内地域2町1村未来協議会では、2町1村が連携し、事務の共通化・共同化に関する取り組みを行っています。

今回は、専門職員による業務の連携強化を図るために勉強会について紹介します。通常、市町村ごとで行われることが多いですが、2町1村が共同で行うことで、一定の参加人数を確保することができ、内容の充実につながることが期待されます。

勉強会では、業務の効率化や標準化に向けた課題の共有、実務に即した改善案の提案など、実践的な議論が交わされました。参加職員からは「地域性が同じ町村で情報交換できてよかった」との声もあり、知見の共有だけでなく、連携の強化にもつながる貴重な機会となりました。

今後も、行政運営の効率化と持続可能な地域づくりをめざし、2町1村が協力して取り組みを進め、より良い行政サービスの提供につなげていきます。

空き家対策担当者勉強会

現在、2町1村には、多くの空き家が存在しており、その利活用や危険な空き家の除却などが課題となっています。今後、空き家問題はさらに深刻化する可能性があることから、2町1村職員が実際に抱えている処理困難事例の解決に向けた検討・相談を行いました。



◆問合せ 秘書政策課 ☎98-5531

文化財保護担当者研修・意見交換会

埋蔵文化財発掘の届出について、2町1村それぞれの対応が異なるという状況を踏まえ、対応の統一化と実務の共通理解を図るために研修・意見交換を行いました。

